

小児科後期研修プログラム

I 概要と目標

小児科専門医を取得するために2年間の初期研修終了後、一般小児科医として必要な診療手技の習得、ならびにより高度な先進医療に携わることを目標として研修プログラムを作成している。本プログラムは尾道市立市民病院のみでなく、研修病院として岡山大学附属病院を含んでおり、経験豊かな小児科専門医の指導をうけることができる。

II 小児科の概要

当院は1次、2次救急病院として小児救急患者の診療にあたる一方で、地域の機関病院として紹介患者の受け入れを行っている。

常勤医師 1名

入院患者数

	2008年	2009年	2010年
感染症	80	70	58
免疫・アレルギー	30	20	14
リウマチ・膠原病	5	10	9
呼吸器・循環器	40	40	59
代謝・内分泌	15	20	14
消化器	30	20	38
腎・尿路	10	10	4
神経・筋	35	35	22
新生児	30	20	21
その他	25	5	11
合計	300人	250人	250人

III 研修および指導方法

1年次：尾道市立市民病院において、指導医のもとで研修を行う。

(診療 検査 処置)

1. 小児科疾患の診療技術を習得する。
2. 小児科疾患の治療計画を立案し指導医の評価を受ける。
3. 小児に関する画像（レントゲン、CT、MRI、など）を読影し、超音波検査、生理検査（心電図、脳波検査など）などを自ら実施し判断できる。
4. 外来、病棟で行う処置を習得する。
5. 小児救急疾患の診療、検査、処置を習得する。

2年次：岡山大学附属病院における研修

血液、悪性腫瘍、循環器、内分泌、感染免疫、アレルギー、腎、小児心身症、新生児、遺伝疾患の各分野に関する重症症例の研修を行う。

3年次：尾道市立市民病院において単独で外来を行い、入院患者の診療を自らの責任で遂行する。

1. 小児科的疾患の診療を単独で行う。
2. 新生児、小児の主要な検査、処置を単独で行う。
3. 病状や治療内容の説明を単独で行う。

IV その他

日本小児科学会関連学会、症例検討会等に積極的に参加し学術論文を執筆する。